

令和4年度小矢部市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

小矢部市は、砺波平野の一角を占める稲作単作の穀倉地帯であり、水稻を主体とする農業生産が展開されている。地元産の米価の低迷に対する農家経済の安定対策として、農地の集約化を進めるなど生産コストを下げるとともに、転作主要作物である麦・大豆などの生産拡大や付加価値のある作物の生産・販売が必要である。

一方、農家の高齢化が進んでおり、担い手の育成が緊急の課題となっている。

また、地力の低下による作物の収量・品質の低下が深刻な状況となっている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

小矢部市ではハトムギ、エゴマをはじめ、加工用キャベツ、里芋、人参、ヤーコン等、多種多様な作物の生産に取り組んでいる。作付方針として、市内の各地区における圃場条件や生産者の経営体系に合った作物の作付けを推進する。

また、新たな付加価値の向上に向けた取り組みとして、付加価値の高い薬用ハトムギの品種育成や、加工用キャベツの販路拡大、エゴマの機械化栽培体系の確立による作付の定着化

・拡大を推進する。さらに、生物農薬の導入、排水対策等、低コスト生産技術の導入により生産コストの低減を推進する。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

水田の有効活用に向けた取り組みとして、毎年関係機関と連携して実施している転作確認の結果を活用し、数年間水稻を組み入れていない作付体系が定着していないか確認する。その上で、今後の作付体系の見込、生産者の経営体系等を踏まえて関係機関、生産者と協議し、ブロックローテーション方式を用いた栽培体系の推進や畑地化への転換が望ましいと判断される圃場については国の支援等を活用しながら畑地化を推進し、水田の有効活用を図る。

なお、畑地化における作付については各地区の実情に合った作物を推進する。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

需要動向に応じた生産を行うとともに、気象変動に強い稲体にするため、土づくり資材、発酵鶏ふん等を積極的に活用し、土づくりを推進する。

(2) 備蓄米

積極的に取組み、作付面積及び生産量を確保する。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

市内養鶏農家及び稲葉山牧野に対して安定した供給ができるよう、複数年契約により作付面積を確保するとともに、刈取後の稲わらを稲葉山牧野に提供することによる耕蓄連携を推進する。併せて団地化、直播栽培、多収品種導入等を推進することで低コスト化を図るとともに、収量を確保する。

イ 米粉用米

複数年契約により需要に応じた作付面積及び生産量を確保する。

ウ 新市場開拓用米

継続した取組のため、調査・研究を行う。

エ WCS 用稲

需要に応じた作付面積及び生産量を確保し、耕畜連携を推進する。

オ 加工用米

需要に応じた作付面積及び生産量を確保する。

(4) 麦、大豆

需要に応じた作付面積、生産量及び品質を確保するため、複数年契約等による栽培を実施する。また、土づくりの実践、湿害を回避するための排水対策の徹底、団地化、二毛作等を進めていくこととする。

(5) 飼料作物

海外産飼料高騰による国内産飼料需要の高まりに応じた取組として、新たに「子実用トウモロコシ」の作付けにより、国内需給率の向上を推進する。また、複数年契約による栽培の実施により、需要に応じた作付面積、生産量を確保する。

(6) そば、なたね

堆肥や土づくり資材を積極的に活用し、土づくりを推進するとともに、出荷団体等と連携を強め、複数年契約等を進めることにより需要に応じた作付面積、生産量を確保する。また、生産性向上等を図るため、担い手への集積や二毛作の取組を推進する。

(7) 地力増進作物

「クロタリヤ」、「セスバニヤ」などの緑肥作物の作付けの拡大を図ることで、高収益作物への転換や、土づくりの取り組みを推進する。

(8) 高収益作物

「ハトムギ」については、加工品開発等に取り組む実需者と連携を図るとともに、土づくりや担い手への集積、二毛作の取組を推進し、収量・品質の向上や生産性の向上を図る。「キャベツ」等の野菜については、水田農業経営の体質強化や、直売所、学校給食等と連携した地産地消の取組等を推進するため、水田を活用した園芸作物等の取組を推進する。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和5年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	1,979		1,951		1,951	
備蓄米	238		219		244	
飼料用米	246		277		261	
米粉用米					1	
新市場開拓用米					2	
WCS用稲	2		2		2	
加工用米	45	4	49		40	
麦	223		241		240	
大豆	189	35	213	47	220	52
飼料作物	12		39		48	
・子実用とうもろこし			27		30	
そば	16	10	12	9	18	9
なたね					0	
地力増進作物	63	62	23	23	63	62
高収益作物	363	79	260	95	279	90
・野菜	103	11	100	11	100	10
・花き・花木	4		4		4	
・果樹	27		25		25	
・その他の高収益作物	229	68	131	84	150	80
その他	1		1		1	
・薬用作物	1		1		1	
畑地化						

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度(実績)		目標値	
				年度		年度	
1・2	麦(基幹作物)、大豆(基幹作物・二毛作)、飼料作物(基幹作物)、そば(基幹作物、二毛作)	複数年契約助成(複数年にわたる土地利用計画への参加)	複数年契約等対象面積(うち二毛作) 〔 麦 大豆 飼料作物 そば 〕	R3	428(45)ha 〔 223ha 178(35)ha 12ha 15(10)ha 〕	R5	463(56)ha 〔 230ha 200(45)ha 16ha 17(11)ha 〕
3・4	麦(基幹作物)、大豆(基幹作物・二毛作)、そば(基幹作物、二毛作)	収量向上加算	設定単収以上経営体割合 〔 麦 大豆 そば 〕	R3	〔 66% 55% 33% 〕	R5	〔 63% 56% 100% 〕
5・6・7	麦、大豆、そば、飼料作物、ハトムギ(基幹作物・二毛作の両方)	土づくり対策加算	実施面積の維持・拡大(うち二毛作) 〔 麦 大豆 そば 飼料作物 ハトムギ 〕	R3	342.7(23.6)ha 〔 42.5ha 101.7(11.3)ha 0(0)ha 0ha 198.5(12.3)ha 〕	R5	386.2(72.3)ha 〔 40.0ha 130.0(20.0)ha 9.2(6.3)ha 30ha 177.0(46.0)ha 〕
8・9	地域振興作物(そば・ハトムギ)	特産振興加算②	そば作付面積 ハトムギ作付面積	R3	5.3ha 155.2ha	R5	7.1ha 155.0ha
10・11	地域振興作物、その他一般作物(別表参照)(二毛作)	高度利用推進助成(二毛作)	麦跡二毛作実施割合 ※割合は対象外作物も含む 〔 ハトムギ 地域振興作物等 〕	R3	52.4% 〔 68.4ha 3.5ha 〕	R5	53.1% 〔 59.9ha 6.2ha 〕
12・13	地域振興作物(そば・ハトムギを除く)、その他一般作物(別表参照)(基幹作物・二毛作の両方)	特産振興加算①	対象作物作付面積	R3	20.5ha	R5	22.0ha
14・15・17	地域振興作物(別表参照)(基幹作物)	地域振興作物助成(基本部分)	対象作物作付面積 〔 ハトムギ そば・ハトムギ除 そば 〕	R3	181.0ha 〔 155.2ha 20.5ha 5.3ha 〕	R5	184.1ha 〔 155.0ha 22.0ha 7.1ha 〕
16	その他一般作物(別表参照)(基幹作物)	その他一般作物助成(基本部分)	対象作物作付面積	R3	5.4ha	R5	7.0ha
18	新市場開拓米(基幹作物)	新市場開拓用米の作付	作付面積	R3	0ha	R5	5.0ha
19	飼料用米、米粉用米	複数年契約加算	飼料用米 複数年契約取組面積・数量 作付面積・数量	R3	216.3ha(1019t) 246.2ha(1,376t)	R5	215.0ha(1,193t) 248.2ha(1,378t)
			米粉用米 複数年契約取組面積・数量 作付面積・数量	R3	0ha(0t) 0ha(0t)	R5	0ha(0t) 0ha(0t)

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:

協議会名:

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1	複数年契約助成	1	4,040	大麦、大豆、飼料作物、そば	複数年にわたる土地利用計画への参加
2	複数年契約助成	2	4,040	大麦、大豆、飼料作物、そば	複数年にわたる土地利用計画への参加
3	収量向上加算	1	2,150	大麦、大豆、そば	一定以上の収量確保
4	収量向上加算	2	2,150	大麦、大豆、そば	一定以上の収量確保
5	土づくり対策加算(堆肥・発酵鶏糞)	1	5,940	大麦、大豆、ハムキ、そば、飼料作物	堆肥若しくは発酵鶏糞を施用
6	土づくり対策加算(地力増進)	1	9,530	大麦、大豆、ハムキ、そば、飼料作物	地力増進作物をすき込む取組
7	土づくり対策加算(二毛作)	2	5,940	大麦、大豆、ハムキ、そば、飼料作物	堆肥若しくは発酵鶏糞を施用
8	特産振興加算②(そば)	1	21,540	そば	計画的な出荷、生産など
9	特産振興加算②(ハムキ)	1	9,640	ハムキ	計画的な出荷、生産など
10	高度利用推進助成(二毛作)(ハムキ)	2	15,020	ハムキ	麦跡作付けの取り組み
11	高度利用推進助成(二毛作)(野菜)	2	20,190	別紙のとおり	麦跡作付けの取り組み
12	特産振興加算①(その他)	1	32,300	別紙のとおり	計画的な出荷、生産など
13	特産振興加算①(その他)(二毛作)	2	10,770	別紙のとおり	計画的な出荷、生産など
14	地域振興作物助成(ハムキ)	1	15,580	ハムキ	出荷を伴う生産
15	地域振興作物助成(ハムキ、そば以外)	1	21,540	別紙のとおり	出荷を伴う生産
16	その他一般作物助成	1	10,770	別紙のとおり	出荷を伴う生産
17	地域振興作物助成	1	0(上限20,000)	そば	出荷を伴う生産
18	新市場開拓用米の作付	1	0(上限20,000)	新市場開拓用米	作付けを行うこと
19	飼料用米、米粉用米の複数年契約加算	1	0(上限6,000)	飼料用米、米粉用米	複数年契約締結による安定した生産の取り組み

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。
ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。